

立川

11

立川と語ろう 立川に生きよう
November 2004
écoutez bien Vol.23 No.240



表紙の人／大根田和美(栄町) 写真／細江英公

げんき 産直
野菜は味方

4

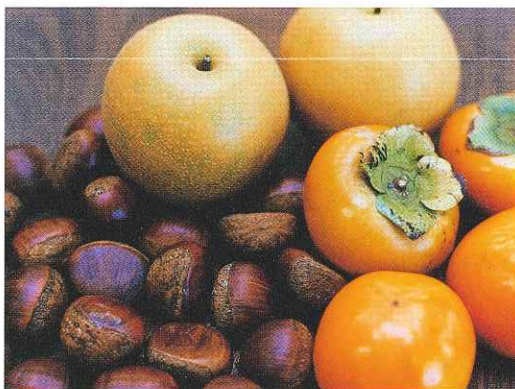


薬効抜群のユリ科

【にら】

ユリ科の野菜がもつイオウ系ファイトケミカル。独特な刺激臭がその特徴だ。香りが食欲をそそり、食べればその薬効は歴然。

にら、にんにく、ねぎ、玉ねぎ……ときらうことなかれ、特有のファイトケミカル、硫化アリルやアリシンには強い抗酸化力があるだけでなく、解毒酵素の活性化によりガンの発生を予防してくれるというのだから、きらうては申し訳ない。積極的に摂るべき野菜なのだ。「おいしくいただければいいのよ。こうすると見た目にもきれいでしょ」。須田校長はいつもすてきな食べ方を教えてくれる。米粉の皮がしっとり、その中にシャキシャキの野菜がたっぷり入っている生春巻きは、アクセントににらを加えてチリソースでいただくさっぱりとした一品。



立川産秋の実り



鈴木英雄さん (砂川町)

鈴木英雄さんのお宅も砂川にある。「うちは梨だよ」と案内してもらった畑には、梨の他にもりんご、ぶどう、洋梨がたくさん実をつけている。「今じゃ息子が主体なんだ」と後継者にも恵まれて、そんなつもりじゃなかったお嫁さんも、直売所の店番をしてくれている。どちらのお宅にもうど室があつて、やはり砂川の農家だ。



馬場良さん(砂川町)と良治さん

調理指導：須田享子 (日本クッキングスクール)

写真：五来孝平/小林達実

●生春巻き

生野菜がおいしいレシピです。

レシピ

材料 (4人分)

ライスペーパー (22cm) 8枚	サルサソース
きゅうり 1本	スイートチリソース 60cc
玉ねぎ 1/2個	トマト 小1個
紫玉ねぎ 少々	ごま油、ナンプラー 各大さじ1/2
春雨 50g	
エビ 16尾	
青しそ 8枚	
にら 8本	
コースハム 80g	

作り方

- きゅうりは塩をまぶして板ずりし、水洗いして半分に切って細切りにする。
- 玉ねぎ、紫玉ねぎは、薄切りにして水にさらす。
- にらは10cm位に切る。
- 春雨は、熱湯でもどし、水洗いして水気を切って、塩、ごま油をふる。ハムはせん切りにする。
- エビは背わたをとり、さっとボイルしてカラをむき、酢大さじ3、砂糖大さじ1、塩少々につける。
- 水でやわらかくしたライスペーパーにエビを2枚に切つてのせ、青しそも半分に切つてエビの上ののせる。(1)(2)とハム、春雨をのせて巻き、途中でにらを入れてしっかり巻く。
- (a)のトマトは、湯むきしてみじん切り、他の調味料を混ぜ合わせる。
- 器に(6)を盛り、(7)のソースを添える。

*ソースは好みでマヨネーズ、マスタード、トマトケチャップを混ぜたり、あたり胡麻にみそ、砂糖、酢少々を混ぜ合わせてもよい。

団地は現代の長屋なんです



内閣府「女性のチャレンジ賞」を受けた
大山自治会長
佐藤 良子さん

■佐藤良子（さとう・よしこ）／宮城県生まれ。昭和37年に上京して以来、立川に在住。団地の棟自治会長をきっかけに自治会やボランティア活動にかかわり、平成11年に高層化して新たに生まれた都営上砂町一丁目アパート・大山自治会の会長に選出される。斬新なアイデアと行動力で自治会活動をリードし、今年内閣府の「女性のチャレンジ賞」を受賞。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

於：えくてびあん編集工房 写真：五来孝平

芳賀 佐藤さんが会長をされている大山自治会は今年、立川のコミュニティ奨励賞を受けられました。恥ずかしながら僕もその審査員の一人をさせていただいたんですが、今度は佐藤さんが自治会活動を通じたまちづくりで内閣府の「女性のチャレンジ賞」。大山団地は住んでいる方の数でいったら、ちょっとした町や村くらいの規模ですよ。

佐藤 1220世帯、約3000人の住民がいますから、三宅島と同じくらい人口がありますね。都営住宅の再生事業で平成8年から13年にかけて高層住宅になった新しい街です。新しい団地を自分たちの住み良い街にしようと住民が取り組んできました。今回の賞は自治会の皆さん全員でいただいたと思っています。

芳賀 大山自治会は住民による違法駐車

取り締まりや駐車場の管理、「ママさんサポートセンター」など、活発で時代を先取りした自治会活動が周りからも注目されている。町内会や自治会が沈滞していると言われたりしますが、元気な自治会活動の秘訣があるのでしょうか？

佐藤 自治会は会員である住民の皆さんが安心、安全に住むために、あってよかった、ありがたいと思われてこそものだと思うんです。そう思っていただけの状況を自ら作っていかないとけない。日常の中で住民をどう支えていくかが大事なんです。平成11年に会長をお受けすることになって考えたのはまず高齢者の方が多いこと。65歳以上の方が約700人いらっしゃる。そのうち約200人は一人暮らしです。さらに0歳から中学校卒業前の子どもの約700人。高齢者や子ど

も、子育て中の若いお母さん、こういう方たちを支援していくために強力な支援部隊を作ろうと、会長になってすぐ「ママさんサポートセンター」を立ち上げました。現在23人体制で幅広い分野の女性たちがフル活動しています。自治会事務所には専従職員がいて、月、水、金、土は住民の方が自由に相談に来ていただけます。私も午後から事務所に詰めますが、人生相談を含めてありとあらゆる相談があるんですよ。会長は自治会専用の携帯電話を持って、緊急連絡や相談に24時間いつでも対応できるようにしています。

芳賀 すごい激務じゃないですか！しかも会長である佐藤さんだけががんばってできることじゃない。そういう協力体制というか、まとまった力はどこから生まれるんでしょう。

佐藤 自治会のようなボランティア組織がうまくいくためには人づくりがいちばん大切だし大変なんです。私は今6期目に入りましたが、毎年棟単位の26の区からそれぞれ6つの活動分野ごとに役員を出してもらいます。立候補がなければ棟住民の推薦投票で、なってほしい人を選ぶ。そして、もうひとつ大事なのは自治会活動が楽しくできること。さらにお年寄りや若くて経験のない人、障害のある人なども一緒に活動できること。誰でも参加できて楽しいければ、やっていて気持ちいいじゃないですか。嫌々では長続きしません。リーダーの役目は、常に住民と同じ目の高さで、そういう楽しい雰囲気を作ることだと思います。おかげさまで、今ではお祭りや運動会で実行委員や協力員を募集すると役員以外に7、80人すぐに集まってくれます。心のつながりというのかな、とてもいい人間関係が広がって、ありがたいですね。だから私もがんばれる。

芳賀 なんだか、佐藤さんのお話をうか

がっていると、落語や時代劇に出てくる昔の長屋みたいな雰囲気だな。

佐藤 そうそう、団地は現代の長屋なんです。私、テレビの時代劇が大好きだし、心の中では江戸時代の長屋に戻れたらいいなと思っています。ひとつ井戸を開いてみんながわいわい集まって同じところに住む仲間意識を持ったら、人と人の絆ができたらいいな。今は親子の絆さえ希薄で、家にも学校にも居場所のない子どもたちがたくさんいます。昔は近所におせいかいというか、世話を焼いてくれるおじさんやおばさんが必ずいて、言葉づかいや礼儀作法も教えてくれましたよね。学校も昔の寺子屋みたいに小さなところに子どもたちが自由に行き、そこでとりとめの話につき合ってくれたり、勉強も見てくれるのが理想なんじゃないかと思えますね。「ママさんサポートセンター」もそういう思いからだし、わが家は24時間開放で子どもたちがやってきます。団地を歩いていると、子どもが「カイチョー、また行くよ!」。私も「またおいで!」。

芳賀 あの……24時間いつでもいらっしやいで、ご主人やご家族は？

佐藤 子どもがまだ小さい頃に当時の棟の自治会長をして以来、ずっとこども会とかPTAとかボランティア活動ばかりでしたから。おかげで風邪ひとつひかず元気。これをやめたらボケちゃうねと言ってくれます（笑）。3人の子どものうち上ふたりは結婚して独立しましたが、今でも主人と、主人の仕事を手伝っている下の息子のお弁当を作って送り出しますし、食事も出来合いのものは買いませんよ。炊事、洗濯、掃除だけはきちんとしようと（笑）。

芳賀 それにしても、自分の子どもでもなければ、なかなかそこまでできま

せんよ。

佐藤 父や祖父がそういう人だったんです。宮城の農家で、昔は小作の人とかがたくさんいて、お正月にはみんなで家で食事をしたり。それで、食べるに食べられない人がやってくると、かならずお握りを出していました。まだ本当に小さい頃、子どもたちでその人のことを「コジキだ!」と囁き立てたことがあって、その時、父と祖父にもものすごく怒られたんです。この人だって違う生き方があったら立派な地位になっているかもしれない、今の姿を見て人を差別してはいけないって。それがずっと忘れられないで残っています。それに、祖父も父も学校に本棚を寄贈したり、校庭に旗を立てるポールを立てたり。そういう影響もあると思います。

芳賀 今の世の中は、隣にどんな人が住んでいるのか互いに知らないことも珍しくありませんが、住民同士の心の通う活動がいろいろな地域に広がるといいな。

佐藤 自治会活動は生活のありとあらゆることがかかわってきますから、きれいなだけでは済まない問題もありますけどね。高層住宅に対応した防災、安全対策、今試験的に行っているペットを飼える住宅のあり方など時代に合わせたことも考えなくてはならない。犬の散歩と子どもたちへの声かけ、防犯を兼ねた「あいあいパトロール」のように、砂川地域全体に広がっている運動もあります。時代に対応して緻密な取り組みをしながら、みんながお互いさまと助け合う心で、温かな長屋付き合いみたいな地域づくりができるといいですね。（ここで佐藤さんの携帯電話が鳴る）——団地の女の子たちが家に来たいんですって。ご飯を食べさせてほしいとね。これから買い物をして帰らなくちゃ!

ステーキ&欧風料理 クワトロ	柴崎町2-3-3 528-2983
Casual Restaurant ラ・バンバ	柴崎町2-3-3 524-5800
Pasta Frolla 立川南口店	柴崎町2-3-3 540-8033
不動産 ユウ都市企画	柴崎町2-3-13 528-2566
甘味処 石や	柴崎町2-3-15 524-0862
KIT'S SHOT BAR	柴崎町2-3-20-2F 522-8718
不動産 コマツホーム	柴崎町2-4-6 525-5811
喫茶 キャリー	柴崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処 わ	柴崎町2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	柴崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	柴崎町2-4-8 522-2894
ジョイフルプラザ アネックス	柴崎町2-4-14-1F 521-1228
ファッションハウス ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパン オーロール	柴崎町2-4-15 527-9473
ジョイフルプラザ スクエア	柴崎町2-4-17-1F 528-4250
服地・洋裁材料 藤レディース	柴崎町2-4-19-1F 528-5101
純中国料理 北京大飯店	柴崎町2-4-19-2F 522-6393
和食の店 ななや	柴崎町2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔 菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 柴崎町のお店です。

ジョイフルプラザ	柴崎町2-5-8 529-2772
Cafe COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
マエダ文具店	柴崎町2-6-2 525-6584
日本空手道 佐藤塾	柴崎町2-6-6-2F 548-7460
株式会社 立川紙業	柴崎町2-7-6 527-6111
フューネラル21	柴崎町2-8-9 540-2821
スタジオ269	柴崎町2-8-10 527-0269
写真のE-ス	柴崎町2-9-2 523-0851
Fashion You Me	柴崎町2-9-28 523-1640
石原薬局	柴崎町2-10-3 523-4067
豆腐 やざわ屋本店	柴崎町2-10-14 522-4338
立川中医整体 健身院	柴崎町2-11-21 522-0050
サイクルハウス 輪 輪 館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口店	柴崎町2-12-24 526-2947
株式会社 正盛堂	柴崎町2-17-6 522-2328
いなりすし・のり巻きすし 松月	柴崎町2-17-20 523-4758
カフェテリア 木の葉	柴崎町2-17-23 522-9251
カレーショップ 砂時計	柴崎町2-18-10 525-2414
ビューティーサロン ウィスタリア	柴崎町2-21-15 527-1116

知る人ぞ知る 立川のピン・スポット

パステルピンクのサンパークビル

錦町、線路づたいに見えるピンクのビル、といえば分かる人には分かる。
立川駅からまっすぐ歩けば約5分。
東にまわれば鬼の滑り台がある通称・鬼公園。
不思議な雰囲気につつまれたビルをのぞいてみると……。

写真：小林達実

電車からよく見える灯り



ちょっと目にお店などなさそうなビルだが、陽が暮れるとお店の灯りがJRの電車からよく見える。「お客さまの7割は電車から見たからとおっしゃいます」とイタリアンダイニングの〈asa〉さん。魚介と野菜にこだわり、どこまでもシンプルな南イタリア料理を堪能できる。

お隣はワインバー。扉を開ければその日から常連になれるような〈バル アラディ〉。160種類以上のワインから好みを聞いてセレクトしてくれる。1階にはもう一軒〈餃子天国〉。えび、たこ、コーン、しいたけなどがぎっしり入ったジューシーな大ぶり餃子。一皿5個入りを自家製ラー油でいただければ、やみつきになる。

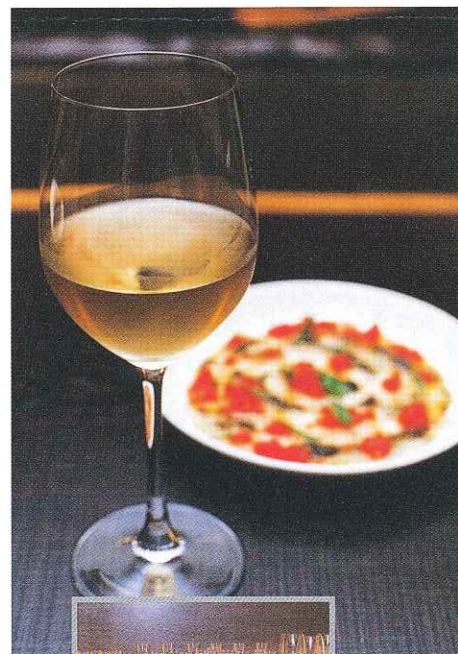
2階に上がれば〈H.works〉の明るいエントランス。テーブルまわりの器や雑貨は個性溢れるアーティストの作品。日常生活にほしい遊びどころが溢れている。縦長の間取りに水槽をずらっと並べているのは〈チームボルネオ〉。実は、熱帯の自然破壊や生物絶滅の危機状況を調査研究している。魚や植物はインターネット販売のみの営業。

若くて新しい立川の動きが集まる古いビル。注目だ。

※サンパークビルのお店については多摩てばこネットでもご紹介しています。

(<http://www.tamatebako-net.ne.jp/topi/topi.html>)

サンパークビル



バル アラディ
月曜定休 18:00~3:00
水・木・金はランチあり
ワインバーならではの味
無添加の料理もおいしい

店主の田ノ下寛人さん

チームボルネオ
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~borneo/home.html>

季子さんが繁殖したベタ
なぜか目が合う

店主の園部由貴さん



隊長の季子宏之さん
ベタ・エニサエを日本に紹介した



H.works
火曜定休 11:00~20:00
園部流おしゃれなディスプレイ



店主の哲(あさ) 公二さん



asa
日曜定休 18:00~0:00
ランチあり
魚介にこだわった南イタリア料理



店主の大井利起さんと
お父さんの大井利彦さん



餃子天国
日・月定休 17:30~22:00
ぎょうざで一杯 ラー油は自家製



常楽我浄
真如苑提供番組組じょうらくがじょうこう

スカイパーフェクトTV 218ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十八年

真如苑
柴崎町1-2-13 TEL. 527-0111(代)

雑誌・書籍・地図・政府刊行物・教科書・文房具・事務機

オリオン書房

- ルミネ店 (立川ルミネ7F) TEL 042-527-2311
- サザン店 (グランデュオ下サザン2F) TEL 042-525-3111
- 立川北口店 (第一デパート3F) TEL 042-523-3311
- ノルテ店 (パークアベニュー3F) TEL 042-522-1231
- TSUTAYA立川柏町店 (柏町すずかけ通り) TEL 042-534-1311

http://www.orionshobo.com

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING

〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
大廣社 TEL. 527-1949 FAX. 527-1949
042-527-1911 E-mail info@daikousya.jp

みんな一緒に住むなかま アイムで外国人のための専門家無料相談会

立川市民17万人のうち外国籍の方が約3300人と聞くとちょっと驚く。国際化と大きさに構えなくても、草の根で言葉や文化の異なる隣人が確実に増えている。10月2日、立川市総合女性センター・アイムで在住外国人を対象にした無料相談会が行われた。

東京都内の国際交流団体などが協力して都内15カ所で持ち回り開催している。立川では今年2月に続いて2回目。初めての前は57人の相談者が訪れた。今回は26名とやや減ったが、在留資格や結婚・離婚、税金など、ふだん相談する場が少ない悩みごとに弁護士、医師、行政書士、教育相談員、立川市職員などが各部屋に分かれて個別に相談に応じた。

受付から相談内容の聞き取り、専門家への振り分け、中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語・ハンガリー語・ロシア語・タガ



相談会後のフィードバックミーティング

ログ語・インドネシア語の通訳など、運営の主役はNPO法人 たちかわ多文化共生センター（中野隆理理事長）による実行委員会（山田美枝委員長）メンバーとボランティア。日本に長く住む外国人ボランティアも通訳に加わった。市民レベルで相談に来る方の立場の運営を目指す「立川方式」。他の開催場所からも見学に来るなど、注目されている。

この人この店 ⑬

やきもの 陶庵

店主 小西 賢二さん

芋窪街道から栄町四丁目のアーチをくぐってまもなく、左側に陶庵の看板が見えます。店主の小西さんは、器好きが嵩じ、脱サラしてお店を構えるまでになったとか。なるほど見たことのない絵柄や、触ったことのない感触の陶器がたくさん。器を見ているうちに、料理やお酒、花が想像されてきてとても楽しい。「全国の窯場をまわって、素朴な美しさを探してくる。日用雑器ではあるけれどそこには土の温もりがあるんですよ」。岩手の小久慈焼、長崎の三川内焼、鳥根の石見焼など、東京ではあまりお目にかからない壺や片口などがずらり。「まあ、居ながらにして全国の焼物探訪ができるっっちゃうわけですわ」とちらりとまじる関西弁に、こだわりと自信がうかがえます。



大人気の織部面取り鉢 盛鉢(7.5寸) 3500円



〒190-0003 立川市栄町4丁目18番-1
TEL 042-528-7761
営業時間 10:00～18:00
定休日 水曜日

写真：五来孝平

愛妻家の証明

森 忠明

「先日の夕刻。中村和三郎が突然拙宅にやってきた。」「行きつけの鮎屋で飲もう。南口の『寿し勝』か伊勢丹の『魯山』だな。」「私がそう言って立つと、彼は急に両目を潤ませ、「すみません。高級な鮎はダメなんです。結婚して二十年以上、女房には回転ずししか食べさせてないんで、自分だけおいしいものは……。やき鳥なんかなら……。」「ときたのである。感動しつつもいささか憫れ、「ふーむ。生物進化論的には魚より鳥のほうが高級だったはずだがなあ。それにオレは『くし秀』ってゆう高級やき鳥店しか知らねえし。ケータイ使って素敵な奥さんに特別許可もらええば？」。」「ダメです」。



挿画：野崎義成

愛妻家であると自認するにしても公認されたいにしても、拳証の義務なんかは不要だけれど、相愛という幻想あるいは確信は必要だろう。幻想も確信も持たなくなつて久しい私には、中村和三郎やえつちゃん夫婦が羨ましくてならない。その生涯に一度でも女房の首を締めようと思わなかった男がいたら、お目にかかりたい。とストリンドベリは書いたが、お目にかかれるのである。

「ぷちり膝を正した立役者はきっぱり。」「まいったね。妻をそこまで思ひ睦ぶなんて、なんだか万葉集の防人みたい。社会派で博愛主義者なのに、私生活主義の恐妻家と誤解されるおそれがあるぜ……。」「私はぶつぶつ言いながら『くし秀』に向かい、途中みずほに寄ってナケナシの金をおろし、彼は黙って俯きがちについてきた。駅のコンコースで別れてから、ごちそうする店の選択を過つたことに気づいた。愛妻家は愛妻家が営む所に連れてゆくべきだったのだ。あのラーメン屋さへへ。」「デパート『フロム中武』裏の細道に『えつちゃんラーメン』はある。いかす屋台だ。」「えつちゃん、奥さんのお名前ですか。」「昨年、ワンカップ大関を注文しがてら、福沢諭吉によく似た御店主にたずねると、少し照れたようにうなづいた。」

大根田 和美さん(栄町)

立川クラフト同好会会長。木や竹、紙、自然の素材を使ってモノを作るのが大好きなのだ。自ら作り、楽しむだけでなく、同好の仲間たちと毎週末には国営昭和記念公園内こどもの森「木工房」で、訪れた子どもたちの工作の指導をする。もちろん無償のボランティア活動。工作のための素材は、枝打ちなどで切られた樹木の枝や木の葉、笹など公園内の自然のものばかり。それも自分たちで集めてくる。子どもたちが生き生きとモノづくりに打ち込む様子を見守る顔が実に楽しそう。他にも子ども会活動や市の社会教育委員など、奉仕活動の場のおちこちに、この人の笑顔あり。

錦中央公園で 写真：細江英公

かたこと

この号を手にとりていただく頃は、高い山の方から紅葉の便りが届いているでしょうか。北国から南へ、山から里へ、自然が華やかな装いを見せてくれます▼樹の実が大きくなり、里では野菜が太る稔りの季節ですが、秋の賑わいには間もなくやってくる冬の予感もまじります。燃え立つような紅葉に、行く秋のわびしさも加わり、一年も残り少なくなったなと思ってしまう▼すっかり早くなった夕暮れ、人恋しい時頃、灯りをともした窓が見えると、それだけで胸の奥がほんのり温かくなります。＜VIEW＞はJRの電車からお店の明かりが良く見える立川駅南口の古いビルのお話です。それぞれにこだわりを持った店主のみさんが集まる、立川の新しいスポットといえるでしょう▼街も生きていて、日々呼吸し、変わっていきます。そうであれば、より住みやすく魅力的な街になっていってほしいものです。対談をさせていただいた大山自治会長の佐藤良子さんは、活気のある団地自治会の旗頭的存在。女性ならではのきめ細やかさとパワーに、こちらも元気をいただいています▼「えくてびあん流」では、このほど開かれた外国人の方のための専門家による無料相談のレポートです。文化の違いやいろいろな課題はあっても、住民同士、理解し助け合おうという市民レベルの動き。これも、ちょっといい今の立川です。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 小林達美/五来孝平

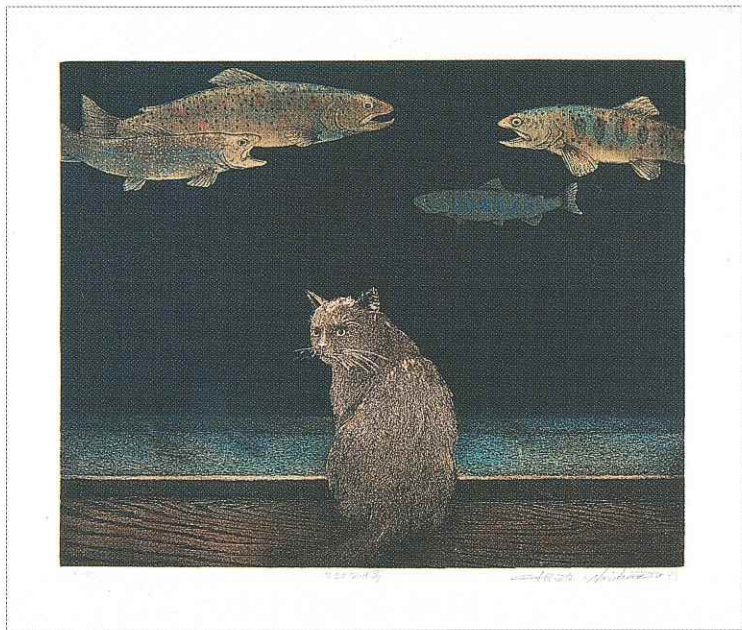
えくてびあん ⑬ 11月号

第23巻 通巻240号
平成16年11月1日発行
発行 えくてびあん編集部
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

郷愁への旅

乗兼広人 銅版画 [4]



「はるかな世界」

1988年 50.0×41.0cm 3版4色

乗兼広人 銅版画 素描 自選展

10月28日(木)~
11月9日(火)

なみき画廊
JR立川駅北口
立川郵便局隣り
電話
042-523-1775

私には、版画や旅と同じくらい大切なものがある。それは釣り。中でもフライフィッシングである。独特な「曲り家」の取材と釣りを兼ねて毎年訪ねる岩手県遠野でよく利用する公営の宿にイワナ、ヤマメ、ニジマスが泳ぐミニ水族館がある。宿の飼い猫がその前にチヨコンと座っていた。掲載作はその情景から生まれた。

魚のこととなると思わず力が入り、3版4色の作品に半年もかかった。完成した時は大物を釣り上げた時に匹敵する快感だった。「趣味に家一軒建つくらいつぎ込めば、その人生はバラ色である」とは、さるフライフィッシャーの格言。とてもそこまではいけないが、私の釣りに制作と切り離せない。